

**Biz Box ルータ「N1200」
ファームウェアリリースノート
Rev. 10. 01. 49**

Rev. 10. 01. 49

以下のとおり機能追加・機能改善が行われました。

1. 本バージョンで仕様変更された項目

■仕様変更

[1] RIPで他のルーターから経路を受信しているとき、スタティックやOSPFなどRIPより優先度が高く設定されたルーティングプロトコルで同じ宛先ネットワークへの経路を受信した場合の仕様を以下のように変更した。

- 無効となったRIP由来の経路にはshow ip route detailコマンドの付加情報に“(hidden)”ではなく“(invalid)”と表示するようにした。
- 無効となったRIP由来の経路を削除するか、優先度が高い経路が消滅したときに再有効化させるかをrip preferenceコマンドのオプションで設定できるようにした。

ORIPによる経路の優先度の設定

[書式]

```
rip preference PREFERENCE [invalid-route-reactivate=SWITCH]
no rip preference [PREFERENCE [invalid-route-reactivate=SWITCH]]
```

[設定値及び初期値]

PREFERENCE

[設定値] : 1以上の数値 (1...2147483647)

[初期値] : 1000

SWITCH ★

[設定値] :

設定値	説明
on	無効となったRIP由来の経路を削除しない
off	無効となったRIP由来の経路を削除する

[初期値] : off

[説明]

RIPにより得られた経路の優先度を設定する。経路の優先度は1以上の数値で表され、数字が大きい程優先度が高い。スタティックとRIPなど複数のプロトコルで得られた経路が食い違う場合には、優先度が高い方が採用される。優先度が同じ場合には時間的に先に採用された経路が有効となる。

RIPで他のルーターから経路を受信しているとき、スタティックやOSPFなどRIPより優先度が高く設定されたルーティングプロトコルで同じ経路を受信した場合、通常RIPにより受信した経路は無効と

なって削除されるが、invalid-route-reactivateオプションをonで指定している場合、優先度が高い経路が消滅したときに無効になっていたRIP由来の経路を再有効化する。

[ノート]

スタティック経路の優先度は10000で固定である。invalid-route-reactivateオプションをonで指定しているとき、再有効化した経路をRIPの発信元が広告しなくなっても当該経路がルーティングテーブル上に残り続けることがあるため、invalid-route-reactivateオプションはoffにすることが望ましい。

なお、上記のルーティングテーブルに残った経路は、RIPの使用を停止することで削除できる。

[2] IKEv2で、鍵交換や鍵の使用方法を、一部の実装に合わせられるようにした。IKEv2の旧実装(リリース1)と新実装(リリース2)は、ipsec ike payload typeコマンドで切り替えることができる。

IKEv2の旧実装と新実装で、IPsec接続やデータコネクト拠点間接続する場合、キープアライブやリキーに失敗してトンネルダウンしたり、リキー後にデータの送受信ができなくなる。

○IKEペイロードタイプの設定

[書式]

```
ipsec ike payload type GATEWAY_ID TYPE1 [TYPE2]
no ipsec ike payload type GATEWAY_ID [TYPE1 ...]
```

[設定値及び初期値]

GATEWAY_ID

[設定値] : セキュリティ・ゲートウェイの識別子

[初期値] : -

TYPE1 : IKEv1のメッセージのフォーマット

[設定値] :

設定値	説明
1	BIZBOXルータのリリース2との互換性を保持する
2	BIZBOXルータのリリース3に合わせる
3	初期ベクトル(IV)の生成方法を一部の実装に合わせる

[初期値] : 2

TYPE2: IKEv2のメッセージのフォーマット

[設定値] :

設定値	説明
1	BIZBOXルータのIKEv2のリリース1との互換性を保持する
2	鍵交換や鍵の使用方法を一部の実装に合わせる

[初期値] : 2

[説明]

IKEv1およびIKEv2ペイロードのタイプを設定する。

IKEv1でBIZBOXルータの古いリビジョンと接続する場合には、TYPE1を1に設定する必要がある。

IKEv2でBIZBOXルータの以下のリビジョンと接続する場合には、TYPE2を1に設定する必要がある。

機種	リビジョン
N1200	Rev. 10. 01. 43以前

- [3] リモートセットアップの着信で接続後最初のフレームが異常なフレームだったときにだけ間違っただけ接続に正常だと判断して切断していたが、これを無視して着信の処理を継続するように変更した。
- [4] external-memory performance-test goコマンドを実行したとき、テストデータをSYSLOGIに出力しないようにした。
- [5] フィルターやNATの設定にモニターとして“submission”を使用できるようにした。“submission”はポート番号587として処理される。
また、GUIのウィザードでメールを利用する設定にしたときに、submissionもsmtpやpop3と同様にフィルターで通すようにした。
- [6] GUIの[保守]にTECHINFOの情報を表示する項目を追加した。

2 本バージョンで修正された項目

- [1] show status pp コマンドおよび、show status wan1 コマンドで、モバイルインターネット機能に割り当てられたインターフェースの状態を表示させると、リポートすることがあるバグを修正した。
- [2] コマンドヘルプの表示中に“---つづく---”と表示され、そのままログインタイマーがタイムアウトになった状態で Enter キーを入力するとリポートすることがあるバグを修正した。
- [3] nat descriptor address outer コマンドで、IP アドレスの範囲に 16385 個以上のアドレスを指定すると、リポートしたりハングアップしたりすることがあるバグを修正した。
- [4] scp コマンドで、送信元ファイル名に半角スペースを含む文字列を指定するとリポートするバグを修正した。
- [5] ipv6 INTERFACE mld router コマンドを設定するとリポートする可能性を排除した。
- [6] IKEv2 で接続中にリポートする可能性を排除した。
- [7] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、以下のデータ通信端末を使用しているとき、網への接続ができなくなることがあるバグを修正した。
- docomo L-02C

- docomo L-03D
- IJ mobile 510FU
- NTT コム WM320

[8] モバイルインターネット機能の PP インターフェース接続で、以下のデータ通信端末で接続中に電波受信レベルの取得要求をしたとき、表示されるエラーメッセージが不適切であるバグを修正した。

- docomo L-02C
- docomo L-03D

[9] Unnumbered 接続をしているインターフェースで OSPF を使用すると経路が正しく切り替わらないバグを修正した。

Rev. 10. 01. 43 のみで発生する。

[10] L2TP/IPsec で、以下の条件に合致すると切断処理が行われてしまうバグを修正した。

- IPsec フェーズ 1 で再送された第 3 メッセージおよび第 5 メッセージを受信したとき
- IPsec フェーズ 1 が確立した状態で、そのフェーズ 1 で使用された情報を持つ IPsec フェーズ 1 のメッセージを受信したとき

[11] L2TP/IPsec で VJC または GCP が有効な場合、データ領域が不正な L2TP パケットが送信されることがあるバグを修正した。

[12] IKEv2 で、接続するそれぞれのルーターから同時に鍵交換を始動した場合、トンネルが確立してもデータの送受信ができないことがあるバグを修正した。

[13] SNMP で、LAN 分割およびタグ VLAN インターフェースの送信パケット数が物理 LAN インターフェースでカウントされるバグを修正した。

また、受信オクテット数について、イーサネットヘッダ分がカウントされないことがあるバグを修正した。

[14] ISDN 回線から 1792 バイトのフレームを受信できないバグを修正した。

[15] nat descriptor masquerade unconvertible port コマンドで if-possible を設定しているとき、静的 IP マスカレード設定と重複するポート番号が変換対象とならないバグを修正した。

[16] IP アドレスを設定したときに静的 ARP のエントリが消えてしまうバグを修正した。

[17] 外部メモリ内のファームウェアから起動しているとき、TFTP でリビジョンアップできないことがあるバグを修正した。

[18] TFTP でルーターの設定を取得したときに、取得した設定ファイルで一部の機能のパナーが表示されないバグを修正した。

[19] no ipv6 INTERFACE mtu コマンドを実行しても、インターフェースに設定された MTU 値が初期値に戻らないバグを修正した。

- [20] dhcp scope lease type コマンドが削除できないことがあるバグを修正した。
- [21] dhcp scope lease type コマンドで bind-priority を設定し、fallback オプションを指定したときのエラーメッセージが不適切であるバグを修正した。
- [22] scp コマンドで、送信元ファイルまたは送信先ファイルの設定値にマルチバイト文字を入力したとき、表示されるエラーメッセージが不適切であるバグを修正した。
- [23] queue INTERFACE class property コマンドで、INTERFACE に物理 LAN ポート以外のインターフェースを指定したとき、bandwidth=ngn オプションが設定できてしまうバグを修正した。
- [24] show ip secure filter コマンドで、NULL インターフェースが指定できないバグを修正した。
- [25] 以下のコマンドで、LOOPBACK インターフェースおよび NULL インターフェースがタブ補完されないバグを修正した。
- ip stealth
 - ipv6 stealth
- [26] ip filter dynamic コマンドおよび ipv6 filter dynamic コマンドで、使用できない以下のニーモニックが設定できてしまうバグを修正した。
- ip, ipv6, icmp, rsvp, gre, esp, ah, icmp6, icmpv6, ospf, pim
- [27] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。
- bgp aggregate filter
 - dhcp scope lease type
 - ip filter dynamic
 - ipv6 filter dynamic
 - ipv6 nd ns-trigger-dad ※no コマンド
 - ipv6 route
 - rename
 - telnet
- [28] 外部メモリ内の設定ファイルで起動し、外部メモリを抜いた状態で GUI から設定の変更を行ったとき、警告画面が表示されないことがあるバグを修正した。